あの人この人

優良路線職員として
昭和三十六年度知事表彰をうけた
西村常作さん
〈県松橋土木事務所勤務〉

炎天下。賑やかな海水浴場沿いの道を猛然と砂ホコリを上げてバスが疾走する。その黄色いほこりの中にツルハシを振り上げる西村さんの姿を見つけた。小柄なタイプで、真黒に陽やけした顔。腰のタオルは汗とほこりにまみれていた。この路線は島原―宇土線でいわゆる国際観光ルートの一環。西村さんは、この部分の八粁と三角―松橋線の二粁の道を営々と十五年余も守りつづけてきた。

＊

路線職員の仕事ほど地味で縁の下の力もちという感じにピッタリなものはないだろう。ひでりの夏も雨風の吹きすさぶ災害時も、七つ道具を肩に出動である。路面の凹凸をなおす。測溝をさらえて水はけをよくする。交通の見透しをよくするために萱や灌木を除去する。それこそわが家の庭のごとき愛着がなければこんな根気のいる仕事は続かないだろう。雨が降ると路面の粘土質が轍に押し寄せられて分離し、表面の砂利が浮上る。ポツかりと大きい水溜りができる。それに対して混和剤（石灰石の風化したものや岩の砕石）を撒いて丹念に路面を整理する。

＊

天気が続くとむせるようなホコリの中で息もつけない。西村さんにいわせれば「全くの泥人形」で悪戦苦斗となる。

仕事柄、運転手や車掌さんとの顔馴染みも多く、「ご苦労さん！」と声をかけられれば仕事の冥利を感じる。それとは逆に、もうもうたるホコリを残して「路傍の石」のごとく無視して通走する車を見送りながらわれながら情なくなる時もあるそうだ。又、路脇に残飯や汚物が捨てられたり、道路標識がコワされたりして困る時もあるが概して皆さんは協力的という。

最も緊張するのは災害時。土木事務所への緊急連絡は災害対策の重要なキメ手だからだ。

西村さんは無趣味。いうなれば仕事が生活のすべてだとおっしゃる。外出しても、ヨソの道路ばかりが気にかゝるらしい。まさしく「道」ひとすじに生きる人である。

★宇土郡三角町郡浦中村。昭和二十一年から路線職員として勤務。五十三才。

〈汗にまみれて…〉

○なんでも相談室△

（問）私はある事情で夫と別れて五年になります。以来二人の子供を育ててまいりました。長男はただ今中学三年、長女は小学六年です。洋裁の内職や臨時働きなどでどうにか支えてきましたが、子供の成長を考えますとこのまゝではどうしても生活に自信が持てません。

聞くところでは私どものような世帯には資金の貸付があるとのこと、この際貸本屋を始めてみたいと思いますが手続等その他についてお教え下さい。

（玉名市K子）

（答）女手一つでお子様を育てて行かれることは並大抵のことではないとお察しいたします。ましてやお子様方が中学、高校と進まれるに従い母親として今後の重責を痛感され今日のお手紙となつたものと思います。

まず、お尋ねの資金のことですが、県ではあなた方のようなご家庭のために「母子福祉資金貸付等に関する法律」というものがありまして各種資金の貸付を行つています。たとえばあなたの場合、貸本屋を始められのであれば、事業開始資金の貸付を受けることができます。これは十万円を限度とし年利三分で一年据置の後六年間で、年賦、半年賦又は月賦、どれでもご都合のいゝ方法でお返しになればよいことになつています。

申請書の用紙は最寄りの福祉事務所にございますので、よく説明をお聞きになつて書類を整えてご提出下さい。県では提出された書類について児童福祉審議会で審査のうえ貸付が決定されることになつています。

事業が軌道にのり店を充実又は拡張して増収を計りたいとお考えの時は、事業継続資金として五万円までは貸付ができることになつています。

また、お子様方の成長に伴い高校進学ともなれば修学資金の貸付制度（月千円）もあり、又中学卒業後技能を身につけたいお子さんの為には修業資金、就職のためでしたら支度資金というものがあります。

以上概略のみ説明いたしましたが、資金貸付についての詳しいことは県婦人児童課または最寄りの福祉事務所、母子相談員にご相談下さい。

なお、これらの資金を有効にご活用になり、より豊かに明るくお子様方と楽しい生活を築いていかれますようお祈りいたします。

（婦人児童課）

町の話題
村の話題

投稿歓迎

町史刊行ちかし
城南町

わが町の町史編さん会は、昭和三十二年満四年間にわたり、毎週金・土・日曜に、熊大松本雅明教授をはじめ調査員がねばりづよく部落調査を続けてきた。

そのかいあつていよいよ十一月末には待望の町史が刊行されることになつた。

この町史は七百頁、写真や図版が数百枚という大がゝりなもので、すでに幾つかの大学・高校・公民館から、予約申し込みをうけている。

調査員や編集委員は、日本一の町史をつくりあげようと、最後の仕上げに汗ダクの奮斗を続けている。

（城南町公民館長**米村久生**）

種豚貸します
旭志村

これからの農業には、畜産を……というわけで、村では昨年度から種豚、乳牛、肥育豚の貸付制度を設けている。

これまでに種豚十四頭を神奈川県から導入して農家に貸し付け、また、乳牛は八頭貸付金額五十万円、肥育豚四十五頭、貸付金額二十九万七千四百円を、それぞれ農協を通じて貸し付けた。

今年度は乳牛と肥育豚の貸付資金として百万円（乳牛七十万円、肥育豚三十万円）を計上している。

この貸付金の貸付期間は一ヵ年、利率は年二分五厘。

（旭志村**総務課**）

古墳の保存にのりだす
竜ケ岳町

大道の葛崎ごえには、昔から「名切の古墳」と呼ばれている壮大な古墳がある。

規模が大きいばかりでなく、比較的原型をとどめている点で天草郡中第一であろう。

これは約千六百年ぐらい昔の貴人の墳墓といわれ、考古学上貴重な遺跡であるので、このほど大道公民館の大森主事らの協力で、いばらや蔓草を切りはらつて保存にのりだした。

なお、赤崎部落には、別に室町時代の墓もあるので調査中である。

（龍ケ岳町公民館**松江主事**）

町ぐるみの親子会
芦北町

芦北町公民館では、本年度町長の施政方針の一つである"青少年の成育"を取り上げ、最近とみに多くなつた青少年の犯罪と事故を未然に防ごうと、今迄あつた子供会に親達も参加して親子会を結成。夏休み中は勿論、年間を通じて、事故防止をする事になつた。

早速夏休みには、六十一の各部落では、一日奉仕の汗の結晶である山林の手入の報酬を供出して、幻灯のスライドを購入するやら、童話会の計画を立てるやら、部落民総出の海水浴を実施するやら、学校指定の水泳場を整備するやら、親と子が一しよに楽しく遊ぶ時間をつくることに一生けんめい。こうして非行青少年の事故は一件も出すまいと張り切つている。

（芦北町公民館**徳尾主事**）

町旗の図案を募集中
大矢野町

町旗のもとに町民の団結を誓い、町の発展を期そうと、いま町旗の図案を募集しているが、八月末日の締め切りを前に、すでに二十点以上の応募作品が集つている。

図案は町の歴史と観光を象徴したもの、賞金は一等一点三千円、二等一点二千円、三等一点一千円。

（「**広報大矢野**」より）

有線放送の 電話ベカラズ集
小川町

有線放送事務局では、つぎのような「ベカラズ集」をつくつて、町内の利用者に注意をうながしているが、ズバリと云つたこの7条に、効果はてきめん。

(1)よつぱらつて電話をかけるべからず（一切応じません）
(2)他人の話を受話器をとつて聞くべからず（声が小さくなり、通話が聞えなくなります）
(3)先方が出ない場合、交換手に何回もムリに呼び出しを強いるべからず（お互いに迷惑です。あとでかけなおして下さい）
(4)自分の番号をいつわつてかけるべからず（先方をしらべるとすぐわかさる。僅か5円ぐらいのことで品ががり、人からけいべつされます）
(5)5円を払わずに他人の家からかけるべからず
(6)交換手の名前をきくべからず（絶対いえないきまりになつています）
(7)受話器はみだりにさわるべからず（緊急時以外は放送中には受話器をとらないでさい）

（「**広報おがわ**」より